

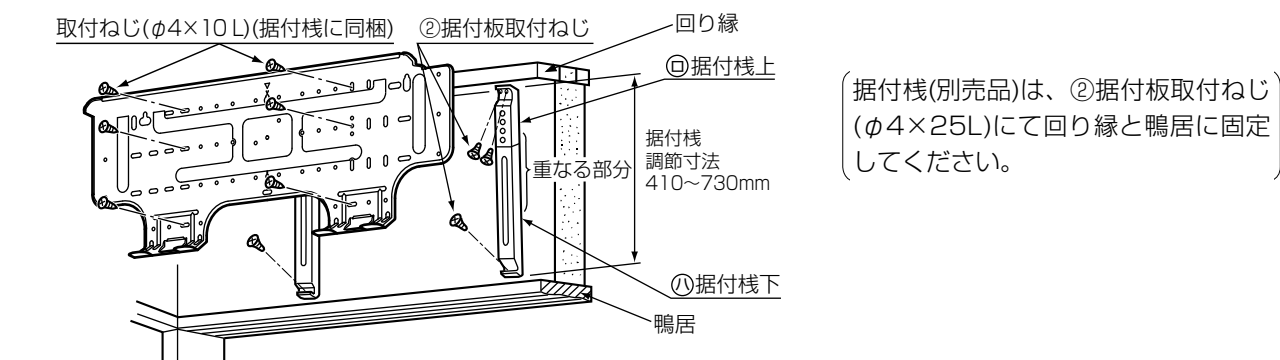
別売品や幹旋品を使用した据え付け方法

1. 据付棧 (RB-I01K2またはRB-I02K2)

回り縁と鴨居を利用する場合

据付棧(別売品)をお使いください。

1. 据付棧上・下を回り縁下面から鴨居上面までの寸法に調整し、据付棧に同梱のねじ (φ4×10L) で据付板を仮止めします。
2. 仮組みした据付板と据付棧を②据付板取付ねじ (φ4×25L) で回り縁と鴨居へ固定します。
3. 据付板の水平を確認してから仮止めのねじをしっかり締め付けます。
4. 据付板の最上部と下部の引っ掛け部付近は必ずねじ止めしてください。



お願い

- 据付板を据付棧上と据付棧下が重ならない部分で固定する場合は、M4六角ナットで据付棧下の裏からとめてください。(六角ナットはRB-I01K2、RB-I02K2に同梱しています)
- 据付棧は上と下を使用し、据付棧取付ピッチ (型紙に記載) で取り付けてください。このように取り付けない場合は、ビビリ音が発生することがあります。

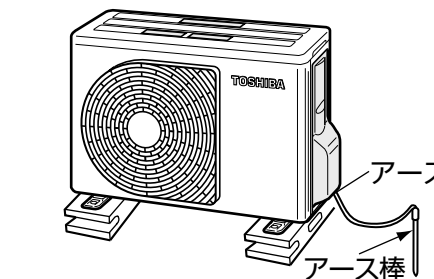
2. アース棒 (RB-Y12)

接地工事のしかた

- 室外または室内ユニットのどちらか一方のアース端子より接地工事を行ってください。

室外ユニットからアースを行う場合

アース棒は同梱されていません。
(アース棒は別売のRB-Y12をお使いください。)

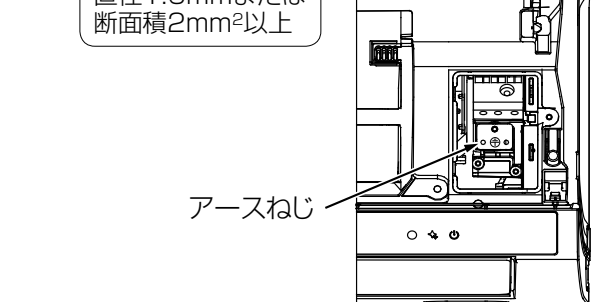


お願い

- アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。
- 漏電ブレーカが働く場合は衝撃波不動作形の漏電ブレーカに交換してください。
- 漏電警報器が働く場合は漏電警報器の設定を変更してください。

室内ユニットからアースを行う場合

アース棒は、付属されていません。(現地調達)



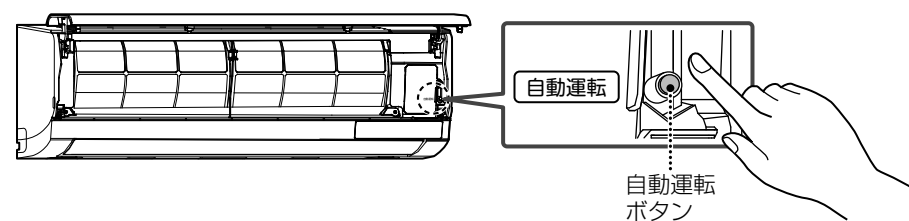
お願い

- アース棒は、直径1.6mmまたは断面積2mm²以上

据付工事完了後、必ず実施してください

試運転

1. 電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認します。
2. 停止中に「自動運転」ボタンを1回押すと受信音がピッと鳴り、自動運転になります。
最長約3分後に運転を開始します。(ボタンを押すことに受信音がピッと鳴り、運転が切り替わります。)
運転を始めないときは、配線を再確認してください。



3. 試運転 (自動運転) を停止するときは、「自動運転」ボタンを2回押してください。

→ 自動 → 強制冷房 → 停止

4. リモコンのボタンを押して、リモコンでも運転することを確認します。

3分間再起動防止タイマーについて

エアコンを起動するときや運転を切り換えたときは、約3分間運転を始めません。
これは本体保護のため故障ではありません。

こんなとき

室外ユニットが運転せず、タイマーランプが点滅しながら、 運転ランプが2回点滅を繰り返す

- 電源電圧が200Vになっている可能性がありますので、電源電圧の確認をお願いします。

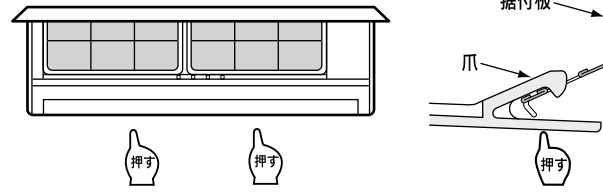
室内ユニットが運転せず、運転ランプのみ2回点滅を繰り返す

- Fケーブルの接続不良が考えられます。接続の再確認をお願いします。

据付後の取りはずしかた (移設時など)

■室内ユニット

室内ユニット下側の「PUSH」を上を押しながら
手前に引きます。



■室外ユニット

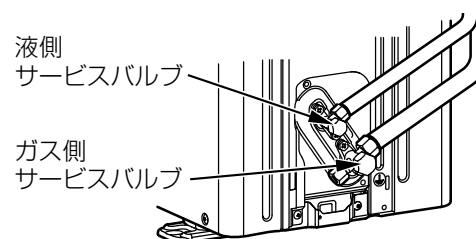
地球環境保護の観点から、ポンプダウン (冷媒回収) をしてから取りはずします。

ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う

- 冷凍サイクル内に空気を混入させない
- サービスバルブを2つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管をはずす
- 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。

●ポンプダウンのしかた (移設時など)

- ① 室内ユニットの「自動運転」ボタンを押して強制冷房運転をします。
- ② 5分~10分後に液側サービスバルブの弁棒を閉めます。
- ③ さらに2分~3分冷房運転後ガス側サービスバルブの弁棒を閉め、運転を停止します。
- ④ 液側とガス側の接続配管を取りはずします。



既設配管再利用のときのご注意

- 古いエアコンを取りはずすときは必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を行ってください。
- 配管肉厚が0.8mmあること。(JIS規格の配管)
- フレアはR32対応に切り直し、φ12.7mmの既設配管のときはフレアナットの変更が必要です。
- ポンプダウンができないとき・配管内が汚れているときは、洗浄するか新しい配管に交換してください。
- 施工には、R32対応の工具を使用してください。
- 一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、このときは買い換え後のエアコンに合った新しい配管を使用してください。
- 配管に腐食・亀裂・傷・変形・劣化などが無い点検してください。
- 配管以外の部材 (断熱材や配管支持部材など) も再使用可能か点検してください。
- 再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してください。